

政策コメンテーター報告(第1回)(意見照会期間:2017年4月10日～4月19日):大石 英生 株式会社日本政策投資銀行設備投資研究所長

質問事項		記述式回答
個人消費の動向		
1	個人消費の動向をどうご覧になっていますか。また、そのような動向となっている要因やメカニズムについて、お考えをご教示ください。	足下、1年前に較べた外食の混雑具合等、肌感覚として、消費は総じて「持ち直している」といった印象を持っている。最近の消費トレンドについてコメントすると、一般に良く指摘されているところであるが、我が家でもネットスーパーの利用は増えており、インターネットを利用した消費行動が広がっていると感じる。高齢者も含めた「情報端末の普及」や消費動機における「購入する際の利便性の重視」が影響していると思う。
消費の活性化		
2	消費を活性化するためには、どうしたらよいとお考えでしょうか。	そもそもの議論として、「消費の活性化」の意味・目的は何かを明確にする必要はないか。消費金額の増大も大事だが、真に消費者の便益の向上につながる財・サービスの提供が、経済行為として適正な価値で評価されるための取り組みを考える必要がある。
プレミアムフライデー		
3	効果	今のところ、効果の評価は難しい。例えば、巷間言われているオンライン調査による都心での4%弱の参加率を大きいと言うのか、小さいと言うのか。
	早帰りを促すための工夫	実効性を高めるため、一律の実施日を設けることは否定しないが、早帰りについて、必ずしも月末金曜日に限定する必要はない。早帰りが可能な時には従業員が実行出来るような柔軟な勤務制度の導入がポイントと思う。なお、当然のことながら、業種・職種等で導入実現の困難度は違う。
	本取組を消費拡大につなげるための工夫	
	本取組を続けていくための工夫	
	その他	